

2016年度 中国語スピーチコンテストの参加報告

岩田 弥生

グローバル・コミュニケーション学部（以降GC学部）中国語コース1年生、2年生、及び英語コース2年生のスピーチコンテスト（*）への参加状況をご報告します。

なお、入賞した学生の記事を、大学・GC学部各々のホームページ及びGC学部のフェイスブックに掲載しています。

（*）開催年月：2016年9月-12月

開催場所：関西地区（〇〇大学・××大学・・・）

コンテスト内容：中国語朗読・暗誦大会、スピーチコンテスト、歌唱コンクール

1. コンテストへの参加希望調査

2016年5月、学生が校外のスピーチコンテストに対してどれくらい関心を持っているかを調べる為、1、2年生向に対し中国語スピーチコンテストの参加に対する希望調査を行いました。

1年生に対しては、出場に興味を持っているかどうかについての調査を、2年生に対しては具体的なコンテストの名前を提示し、参加の希望を調査しました。調査結果を以下に記します。

参加希望調査（1年生）

調査内容：

スピーチコンテストのアンケート：①～③の中、当てはまるものを選んで下さい。

- ①参加してみたい。
- ②興味はあるけれど、迷っている。
- ③参加したくない。

表1：アンケート結果

質問項目	人数	比率
①参加してみたい。	12	41%
②興味を持っているけれど、迷っている。	11	38%
③参加したくない。	6	21%
合計	29 (全員回答)	100%

表1から80%近い学生が、参加に対し興味を持っていることが分かります。

参加希望調査（2年生）

調査内容：

2年生に対しては、多くの学生に参加してもらうことを目的とし、具体的なコンテスト名を提示した上での調査としました。

表2：アンケート結果

質問項目	人数	比率
中国通	1	7%
全日本学生中国語弁論大会（大阪府大会）	1	7%
JAL中国語スピーチコンテスト	8	53%
全日本中国語スピーチ大会大阪府大会	2	13%
どれでもいい	3	20%
合計	15 (全員回答)	100%

表2から、2年生の80%が具体的に出場したいコンテストがあることがわかります。

2. コンテストの出場状況

出場したコンテストの内容及び結果を表3にまとめました。

表3

コンテスト	応募締切	大会日時	内容	出場者	結果
中国通	9月9日	10月8日	スピーチ、クイズ、パフォーマンス	3名 中国語1年1名 中国語2年1名 英語2年1名	2等賞 中国語1年
全日本中国語スピーチコンテスト大阪府大会	10月15日	10月22日	朗読、暗誦、スピーチ	5名 中国語1年4名 中国語2年1名	3等賞 中国語1年
立命館孔子学院中国語スピーチコンテスト	10月14日	11月20日	スピーチ	1名 中国語1年1名 中国語2年1名	入賞 中国語1年
JAL中国語スピーチコンテスト	11月4日	11月26日	スピーチ	3名 中国語1年4名 中国語2年1名	無し
全日本学生中国語弁論大会	10月29日	11月26日	スピーチ	2名 中国語2年2名	無し
西日本地区中国語歌唱コンクール	11月18日	12月17日	歌唱	1名 中国語2年1名	3等賞 中国語2年

表3のように6つの大会に合計15名の学生（英語コースの学生1名を含む）が出場しました。

これは中国語コースの約30%の学生が出場したことになります。

ここから本学の学生が中国語学習、特にスピーチコンテスト等の参加に対して高い意欲を持っていることが分かります。

3. コンテスト出場後のアンケート

2017年1月、コンテストに出場した学生に対してアンケートを実施しました。

アンケート内容：

スピーチコンテストに参加した感想

1. 応募する前にこのようなコンテストがあることを知っていましたか？
・はい ・いいえ
2. このようなコンテストに興味を持っていましたか？
・はい ・いいえ
3. 参加することによってご自身の中国語レベルが上がったと思いますか？
・はい ・いいえ
4. これからも参加したいと思いますか？
・はい ・いいえ
5. 後輩に参加するように勧めますか？
・はい ・いいえ
6. 出場するまでにどのように練習すればよいと思いますか？
例えば：授業中、放課後、指導者と一对一、留学生と練習するなど。
7. 朗読大会・スピーチコンテストに対して何か思ったことがあれば、書いて下さい。
なんでも結構です。

アンケートの結果を表4にまとめました。

表4

アンケート項目	はい	いいえ
1 番	15名	0名
2 番	14名	1名
3 番	15名	0名
4 番	15名	0名
5 番	15名	0名

アンケート 6番及び7番の回答の一部を以下に列挙します。

- 6 番
- ・少し時間を設けてもらって、クラスメートの前でスピーチしてみる。
 - ・文は覚える。人前に慣れる。
 - ・お風呂で暗記する。
 - ・放課後、先生と練習すること。
 - ・朝、授業が始まる前に、指導者の前で練習する。
 - ・電車の中で口だけ動かして声は出さずに練習する。帰宅したら、声に出す。
 - ・放課後、先生に指導して頂く。

- ・授業中などに人前でやって慣れておくことが必要だと思います。あとはとにかく暗記しておくことが大事なので、言い方の練習と更にきちんと覚えているかどうかの確認も必要だと思います。

- 7 番
- ・実際前に出るとすごく緊張して頭が真っ白になったりしたけど、人前に出て発表することやスピーチコンテストに向けて練習すると同時に新しい言葉を必然と覚えることができたので、いい経験だった。
 - ・歌唱コンクールは勝ち負け関係なく人の温かさを感じました。
 - ・いろいろな人から良い影響を受けることができる。
 - ・練習過程が大事だと思います。本番はおまけ。
 - ・本当に前に立つと人がいて緊張はするが、出ることで自信がつく。
 - ・大会に出る人は発音がきれいな人たちばかりなので、そこで競うことは基本として、スピーチの内容を深めたり、使う単語を難しいものにするという作文を作る練習を日頃からすべきだと思いました。

4. これまでの反省及び今後の方針

上記からわかる様に、G C 学部の学生は、中国語の学習意欲があり、かつ練習の機会を欲しています。

この観点から見ると、コンテストの参加自体は中国語の学習意欲を高める効果があるものの、今年度は、スピーチの原稿を仕上げからコンテスト本番までの間は 指導者との 1 対 1 での練習が主体であり、授業等を通じて「人前で発表する練習が不足」していたことが反省としてあげられます。

次年度以降は、学生に対し、より積極的にコンテストへの参加を促し、参加予定者が「原稿の準備」「授業にて発表練習をする機会を得ること」「授業での発表練習時に学生が相互に評価をすること」により、参加者の大会での結果が向上するだけでなく、学生全員の「語学力の進歩」が期待できます。

加えて、この「準備」「授業での発表」「相互評価」のプロセスは教職課程とも通じるものが多く、教職を希望する学生の意識向上につながるものと考えます。